

# 本を選ぶ

## 高校図書館版

NO.62 2016年(平成28年)11月20日  
<http://www.las2005.com>

●発行/ライブラリー・アド・サービス  
〒335-0004 埼玉県蕨市中央5-20-1 TEL=048-432-3726

●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

### 児童文学を手渡す

高校生に絵本や児童文学を手渡すというと、唐突すぎて驚かれるかもしれない。でも高校生だからこそ出会ってほしい作品は多くある。

たとえばディック・ブルーナの「うさこちゃん」シリーズ(福音館書店)。「ミッフィー」の名前のほうが浸透しているかもしれない。キャラクターグッズも多く流布しているので、そもそも“絵本”であることを知らない生徒も多いのではないかと思う。幼児向けの絵本として定番だが、デザイン性にも富んでいるこの絵本は美術を学ぶ人の参考になるだろうし、何より石井桃子の美しい日本語に触れてほしい。

またキャラクター性が強いといえば、今年作者のビアトリクス・ポターが生誕150周年を迎えた「ピーターラビット」シリーズ(福音館書店)も忘れてはならないだろう。絵本だけでなく、ポターの絵や著作の来歴に関する研究書も多くあるから、合わせて紹介したいものだ。そして作家としての姿だけでなく、遺言によって4000エーカーもの土地がナショナル・トラストに残されたことも高校生には伝えたい。1冊の絵本から社会的なことを考えるきっかけを与えることができる。

バージニア・リー・パートン『ちいさいおうち』(岩波書店)、バーバラ・クーニー『にぐまひいて』や『ルピナスさん』(ほるぷ出版)、モーリス・センダック『かいじゅうたちのいるところ』(富山房)、ロジャンコフスキー『野うさぎのフルー』(童話館出版)、ブルー

ノ・ムナーリ『木をかこう』(至光社)、レオ・レオニ『あおくとときいろちゃん』(至光社)なども蔵書されていたらと思う。絵本を手がかりに小さいときのことを思い出すこともあるだろうし、高校生だからこそ作品にこめられた想いを受け取ることもできる。

絵本とひとくちに言っても現在はテーマも手法も多岐にわたっており、決して幼児だけのものではない。絵画表現のひとつとして見ることも可能だ。また「見える人も見えない人も一緒に絵本を楽しみたい」というコンセプトのもと出版されている“てんじつきさわるえほん”シリーズは年齢を問わず楽しめるものだ。点字に直接触れるよい機会にもなろう。

そのほか、ノンフィクション絵本は特定の分野の導入にはもってこいだ。福音館書店「たくさんのふしぎ」、あかね書房「科学のアルバム」、偕成社「世界のともだち」、農文協「農家になろう」など。モリナガ・ヨウのイラストルポによる『築地市場』(小峰書店)や『図解絵本 東京スカイツリー』(ポプラ社)は、情報過多になりやすいところをほどよく取捨選択されていて何を、どこを、どう見ればよいか、上手に提示されている。

世界各国の昔話は文学の基本であり、かつ国際理解にも役立つ。こぐま社「子どもに語る」シリーズや東京子ども図書館「おはなしのろうそく」はぜひとも揃えてほしい。岩波少年文庫や福音館文庫も地味かもしれないが、ほかにはないラインナップで物語の豊かさを感じられるものだ。流行りのミステリやライトノベルにはない、読書の醍醐味を味わってもらえるのではないだろうか。

(菅原 幸子:教文館ナルニア国)

# もっと本を読もう 誌上ブックトーク

—世界を見直すきっかけになる科学の本—

ベストセラーにも映画にもならないし、理系の専門書はどうも苦手かもしれないけど、科学の本が伝えてくれる情報と物語は、いつもと一味違う驚きと納得で、知りたい楽しみたいの気持ちを満たしてくれるでしょう。

## 「金属」から始めます

レアメタルは、ご存じ携帯電話やLED、IC機器などの製造に必要とされていますが、日本はレアメタルに限らず、必要な金属資源は不足ぎみです。豊富に埋蔵している国は限られていて、外交問題にもなっています。『レアメタルのふしぎ』（齋藤勝裕 ソフトバンク クリエイティブ(株) 2009）

この本のカバーの副題は、一けっこうあるのになぜ「レア」？ 楽しく学ぶ希少金属の基礎一書かれています。しかし、名前の「レア」は、希少を意味しているが、その種類は多いのです。2000年ごろから話題になってきましたが、実は、案外耳慣れた金属群なのです。ヒ素、水銀、ニッケル、メタン、マンガン、白金、タリウムなどなど。「レアメタルは、鉄鋼を強くし、電極を透明にし、半導体の性能を上げ、各種の化学反応を触媒します」。この本では、ヒ素や水銀の用途に、「映画では殺人に」と小さな挿絵に注釈をつけて少し遊んでいます。

レアメタルは、毒性があり、取り出すのが面倒な金属の総称です。レアメタルが埋蔵されているのは、深海で、冷たい深海の底で長年押し潰されているので、固体になっています（例えばメタンもガスではなく固体に）が、海面下3000mの深海から掘り出すには莫大な経費がかかります。アメリカでは行われているそうですが、環境破壊も伴います。日本のレアメタルは、掘り尽くされているそうですが、代替レアメタルの開発も積極的に進行中だそうです。

気持を持ち直して、待ってみましょうというメッセージが伝わってきます。

## ウイルスって何か知っていますか

耳にすることはあっても、細菌の一種として認識しているのがウイルスと言っても過言ではないでしょう。インフルエンザはウイルスで発症し、抗生物質で退治した位の経験しかありません。『ウイルス・プラネット』（カール・ジンマー著 今西康子訳 飛鳥新社 2013）を最後まで頑張って読むと、何百万年前から、地球上至る所に膨大な数のウイルスが存在し、人間を攻撃したり救ったりしている極小で、「ウイルスの定義」さえはっきりしていないそうです。「ウイルス」は、ラテン語由来で、ローマ帝国で用いられた言葉だそうです。ラテン語の「ウイルス」には、「蛇の毒液」と「人間の精液」という二つの意味があり、「破壊」と「創造」とが同居している命名です。ウイルスが原因になった病では、ワクチンが人間の味方をするそうですが、ウイルスは突然変異で自在に変化して、ワクチンの開発が追い付かない。人間から動物に、動物から人間に行き来して、手の施し様もないようなウイルス。1981年後に現代史上最悪の疫病となる細胞性免疫不全がアメリカで見つかりました。今までのところ、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）が、体内の免疫系の働きでその大部分が殺されてしまっても、極わずかなウイルスは、そのまま成長と分裂を続けて、あるとき大放出をして新たな細胞に感染させ、免疫系が頑張りますが、遂には免疫系が力尽きてしまいます。

現在のところ、地球規模で協力して、地球規模の爆発的発生に至るのを押さえたのはエボラ出血熱で、人間が全面勝利したウイルスは天然痘が唯一だそうです。

## 生き生きと生きる生物

私たちのすぐそばで、人間は敵わない逞しさと生きている植物をご紹介します。

動物も植物も、存在の究極の目標が子孫を残すことです。動物は動き回って子孫を残しますが、植物は動き回ることができません。いいえ、動き回る必

要がないのです。なぜなら、必要なことは、なにもかも用意されているのです。

まず、食事です。「植物は、根から吸った水と、空気中の二酸化炭素を使って、太陽の光で「ブドウ糖」と「デンプン」という物質をつくっています」。この反応を「光合成」といいます。

次は、生殖の相手を探すことです。植物は、花の色や匂いに工夫をこらし、虫や鳥に受粉を手伝ってもらいます。受粉には、他の株のメシベの花粉が必要です。そのために、メシベはオシベよりも背が高かったり、両方が同時に花粉を飛ばさないようにしたりで近親婚を避けたり、などなど、あっぱれが列挙されているのが、『植物のあっぱれな生き方 生を全うする驚異のしくみ』（田中 修 榊幻冬舎 2013）です。

同じ作者によると、光合成の光を沢山浴するには、莖は真っ直ぐ立たないで、莖の先端を光の方に向けて、葉っぱの表面が光の方に向くようにすることや、植物は病原菌や虫や鳥などにとっての有害な物質（ex：エチレンガス）を持っていて、虫にやられてしまった株がエチレンガスを出してあたりの株に危険を知らせると、皆がエチレンガスを出して身を守るそうで、危険に常に備える心がけと方策のユニークなことはあっぱれです。『タネのふしぎ』（ソフトバンク クリエイティブ 2012）『植物はすごい』（中央公論新社 2012）

また、接触障害という病も持っていて、触れられると大きくなるそうです。稲田の畦近くの稲の生育が悪いのは、畦の草や人間が触ったりするからで、人間は、接触障害を逆手にとって、例えば菊の頭や莖を触って背丈を低くして、大きな花を咲かせるそうです。『植物学「超」入門 キーワードから学ぶ不思議なパワーと魅力』（SB クリエイティブ 2016）から、身の上で起こるであろう苦勞を予知して越えていく一途な植物の生き方を知ると、地球上で共に生きる仲間としての親近感も深まります。

## 世代の語り部

最後は、三人の若者の一つを選択です。

2011年3月11日東北地震を経験した雁部那

由多さんは5年生、体育の授業中でしたが、先生の誘導で体育館から直接校庭に出てきました。しばらくして、母親が学校まで、迎えに来てくれました。家までは300メートルほど。先ほどの揺れで家中足の踏み場もありません。少し経った頃、父親が持っていた無線から、女川に6メートルの津波が来たという情報が入りました。携帯電話もメールもつながらず、停電でテレビもラジオも使えませんでした。家は海岸から2キロ。祖母と母親と妹と大曲小学校へ避難。父親は近所の人に津波が来ることを知らせにいきました。避難生活が始まり、地震が来る前に一緒に話していた友だちを探してヘド口の道を歩き、未だ引き切らない水に遮られ引き返し、そのまま自宅を見に行き、中には入れず黙って家を見ていた時もありました。家族と一緒に入ったのは、震災後一週間経ってからでした。その三日前に一人で家を見に行っただけを、両親に話せたのは、高校生になってからでした。

子どもを持った親は、子どもに余分な心配をかけないように、何事もなかったかのように振るまい、学校も在校生に対して学校らしく育てることが、生き残った子どもを育てる道だと信じ、子どもも親や先生を困らせないように、触れないで毎日を過ごしたそうです。

その時小学校5年生だった雁部那由多さんは、「僕より下の代、特に低学年だった子どもたちは、当時の記憶も薄れていく」し、大きい人は自分の人生の選択に追われているので、「あの日、小さすぎる子どもでもなく、大人でもなかった僕たちの世代こそが、あの体験を自分の言葉で語れる最後の世代だ」と思ったそうです。

中学校で、佐藤敏郎先生との出会いがあり、生徒会活動の中で、仲間2人と語り部活動を始めました。進学した高校は分かれても、三人で、県外の未災地の中学・高校生に、被災地の子どもの経験を語っています。『16歳の語り部』（語り部 雁部那由多 津田穂乃果 相澤朱音、案内役 佐藤敏郎 ポプラ社 2016）

何かと不安定な昨今、「自分の世代でないと出来ない事」という言葉が、重いです。

（なによりも本を読もう会：近藤幸子）

## 教育書から紀要まで

ー埼玉県立総合教育センター資料室を訪ねてー

県立総合教育センターは、平成23年4月に現在の場所に開館しました。もともと県内には、さいたま市と深谷市に教育センターがあり、それぞれ歴史のある教育センターで、司書も在籍していたので、資料などもきちんと管理されていました。

今の場所には、県立高等学校がありました。生徒の減少により既存の県立高校3校を合併させて、総合高校のような高校を開校、一つの学校の建物が残ったので、建物をそっくりそのまま活用して総合教育センターを開館しました。資料室は、従来の校舎とは行き来できませんが、旧校門を入ると、左手に立っている大きな立派な建物の中にあります。

資料室は、県内の小学校・中学校・高等学校についての資料を一同に集めてあります。

資料室勤務2年目の長島利弘さんは、高等学校の司書歴があるので、生徒のいない学校図書館に勤務してるようだとおっしゃっていました。ここは県の司書の異動対象施設なので、県立図書館からの異動はありましたが、学校図書館経験者の異動は長島さんが初めてでした。職員体制は、2名です。

### センターの事業

事業は、

- ①小・中・高校の教員の研修
- ②教員の調査研究
- ③教員の教育相談

この三つの柱を支えるのが資料室の仕事です。

蔵書は、ざっと165000冊。

所蔵している資料の主な分野は、①学校経営 ②教育全般 ③支援教育 ④生涯学習 ⑤幼児教育です。具体的には、

- ①図書；教育に関する図書 7万冊
- ②教育資料；記録集・研究紀要・報告書など 7万5千冊
- ③教科書；小・中・高・特別支援学校の現行及び旧教科書(1940年代から)など 2万2千冊。
- ④雑誌；教育関係雑誌 103タイトル

研修は、法定研修と専門研修があり、法定研修

は法律で決められています。専門研修は、テーマ毎に企画されています。

専門研修のテーマで多いのは、小・中・高校の特別支援研究や学校図書館の研修だそうです。

今年の夏休みには、1日に800人が受講したことがありました。こういう時には、学校の建物をそのまま活用している利点で、会場を押さえるのに苦労することがない反面、交通の便は電車やバスの乗り換えがあって、便数もそれほど多くないので、便利というわけではありません。研修が終ると、資料室に立ち寄り余裕もなく、便数の少ないバスの停留所に向かう人の群を見送ることになります。

毎月テーマを決めて資料展示をしていますが、研修以外に訪れるには、交通の便が悪く、研修中の昼休みに足を運んで来るには、時間に余裕がありません。そこで、資料室としては、座って待つのではなく、出かけてアピールする方向に舵をきりました。

### 本を貸出します

他県の教育センターで、本を貸し出している教育センターは珍しいと言われるので、もしかしたら初めての例かもしれないそうです。閲覧は、どなたでも自由です。本を貸す決まりは、どの借方を選んで同じです。

- 本を借りる資格：県内在住・在学・在勤
- 貸出冊数：5冊（必要に応じて追加可能）
- 貸出期間：3週間以内

返却：窓口で直接返却・ブックポスト（交通の便があまり良くないので難しい）・最寄りの公立図書館（センターから借りた資料を梱包し、所定の用紙を貼付して窓口に出すと無料です）

所定の用紙は、本を借りたときにもらいます。また、このシステムに協力している公立図書館には常備されています。現在県内の38市24町村の公立図書館が協力しています。

借り方は3パターンです。

①研修中は、研修テーマに関連書籍を研修室に展示。展示本の貸出もしています。

②蔵書リストは公開しているので、公立図書館

の窓口でも借りることができます。

⑨県内の高校図書館とは、協力貸出をしています。内容は、県立図書館の高等学校協力貸出と同じです。尚、協力貸出が出来るのは、県内の高校に、図書館司書が配置されているからです。事務的なことは、「県内高校図書館等への協力貸出要項.pdf」で要確認。

公立図書館では置いていない、授業にすぐ使えるちょっとした本を置いてあります。ずいぶん昔に、学校の教員が必要としている本の棚を作っていた公立図書館長のおはなしを棚の前で聞いたことがあって、その経験が今回役に立ったそうです。

ここで目立ってよく借りられるのは、県内の小・中・高校の特別支援校の研究紀要です。担任することになって、必要になるようです。普通校の学習指導案を見たい先生方が多いのは、教え方を具体的に知りたいと思っているからだと思われます。学習指導案については、検索システムを作っています。

研究紀要と学習指導案の資料は、合併する前から教育センターで、きちんと保存管理されて来たおかげです。合併したことで、使い勝手が良くなり、今ではセンターの宝です。

以前資料室の棚は、本がびっしり立っていましたが、今は真ん中の段は、面出し3冊位の棚になって、部屋全体が柔らかく、本を探しやすくしています。

11月には、画期的な「土曜日開室」を試行します。学校図書館の司書にしろ、教員にしろ、平日に当館や公立図書館に向くのは、まず無理です。そう思って試行に踏み切りましたが、2人体制の職場で、ちょっと無茶だったかもしれないませんが、もっともっと活用していただきたい一心での企画です。



資料室棟には、もう一つ面白い展示場があります。それは、展示内容をJICA（独立行政法人国際協力機構）に任せたコーナーです。今は、ブラジルの展示が続いていて、訪問した時には、ブラジルから来た客人と数人の日本人が展示を囲んでいました。

最後に学校司書経験者の赴任で、新たに始まったことをお知らせします。資料室以外の所員へのアピールで、「教育資料室で新たに受け入れた新聞・雑誌のうち、埼玉県に関する記事の一覧」をピックアップした資料を、月二回発行します。県内の先生が書いた題目にちょっと目印をいれたこういう資料を折々見ていると、街外れにスクッと立った静かな建物の中にも、総合教育センターは、子どもや学校や図書館や教員のみなさんに親しまれる拠点になるように思われました。(LAS 探検隊)